

社会福祉法人梓友会法人本部

令和3年度 事業報告

運 営 目 標	進捗状況
1. 法人組織強化と時代に即応した経営の確立 (1) 各拠点施設の 適正な数値目標管理	<ul style="list-style-type: none"> ・月次施設長会議を通して、目標値への意識付け強化を行い、ご利用者ニーズへの早期対応、新規獲得に積極的に取り組んだ結果、特養、短期部門の収入は前年比プラス。 ・一方、通所部門については、新型コロナウイルス感染症の拡大による認定遅延や利用控えにより、一部拠点を除いて前年比マイナスとなった。
(2) 全職員による経費節減の 共通理解	<ul style="list-style-type: none"> ・法人本部経理課より、高額支出（10万円以上）一覧データを各施設に毎月開示、また、定期的に水道光熱費（電気・水道・ガス）の使用量に関する前年対比データを職員会議や事務会議等で開示・共有することで、法人全体での経費節減を推進。 ・さらに、管理者・本部職員を対象とした外部講師による財務管理に関する研修を行い（計6回）、予算管理や費用削減の手法等のノウハウを取得する機会を設けた。
(3) 法人マネジメントの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長会議提出報告様式を一新、複数月・通年での状況把握、成功・不適合事例の情報共有を強化。 ・マネジメントレビューの中間評価を実施し、品質管理の維持強化を図った。結果、外部審査機関による第6回更新審査（11/17～19）において、ISO規格の更新継続が認証された。
(4) ガバナンスの強化・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・会計監査人による会計監査（計6回）、会計顧問事務所（イワサキ経営）による月次監査（計13回）、監事による監事監査（計2回）を通じて、法人・施設の適正運営や会計法規等への遵守徹底に努めた。
(5) 科学的介護情報システム (LIFE) およびDX化対応	<ul style="list-style-type: none"> ・11月末日、全施設への介護記録システム導入及び、施設内LAN環境整備を完了。次年度以降、LIFEへのデータ連動を予定。 ・メールサーバー（9/13）・ホスティング運用（12/21）の外部委託、サーバーフィルタの全施設導入によるIT保全強化を実施。 ・経理資金決済システムのクラウド移行完了（3/15）。
(6) 感染症等の有事に備えた 事業継続計画（BCP）の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・7月末下田市内クラスター発生時に、感染症BCP関連様式の試案を、全施設にて共有、職員の行動履歴管理等に活用。次年度より、各施設毎BCP策定委員会を設置し個別事情に応じたBCP作成に着手。
(7) 継続的な法人運営に向けた 中長期計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)日本経営に将来構想策定支援を委託し、6/25に最終報告を受領し、施設集約やサ高住新設、域外/他業務展開等の将来構想における選択肢の提示を受けた。一方、現状、制度・ニーズ、資金、人材のミスマッチが大きく、内部留保の充実と人材確保に注力する。

運 営 目 標	進捗状況
<p>2. 人材の確保強化と職場環境の革新</p> <p>(1) 人材確保に向けた情報戦略の見直しと情報発信ツールの刷新</p> <p>(2) 新たな外国人労働者等の積極的な活用</p> <p>(3) 各種ハラスメントやメンタルヘルスに対する取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> • HP の刷新を図り R3/12 先行開示、R4/3 全面更新。 • 採用コンテンツ、事業内容紹介、県外者向け地域紹介等掲載。 • 各施設より定期的な情報発信実施、月間 500 アクセス実現。 <ul style="list-style-type: none"> • ミャンマー政情不安により、後続実習生の獲得は次年度繰延べ。 • 既存実習生 1 名が日本語試験 N2 合格。また、全員認定試験に合格し、2 年間の延長勤務に合意。後進育成にも積極意向。 <ul style="list-style-type: none"> • 8月に人事労務顧問先社会労務士法人によるコンプライアンス監査を実施し、令和4年度中の就業他規定改定作業実施中。 • ハラスメント(10/26)、介護休業(4/7)等雇用制度改変研修実施。
<p>3. 地域共生社会実現とコンプライアンス経営の徹底</p> <p>(1) 社会福祉法人の公益性を重視した社会貢献活動の実施</p> <p>(2) 法令遵守に基づく各種研修会の開催</p>	<p>社協主催 生活困窮者への就労支援受け入れ準備するも、新型コロナウイルス流行に伴い実施キャンセル。引き続き支援実施継続。</p> <p>顧問弁護士法人かなめによる管理・マネジメント職員向けセミナー（介護業界特化）、ドクターメイトオンライン研修を活用。</p>

社会福祉法人梓友会 法人本部 令和3年度 事業報告

1. 理事会及び評議員会開催状況並びに承認事項

令和3年4月9日 第1回理事会

開催場所：書面による決議の省略

出席：—

- 承認事項：・令和3年度役員等賠償保険責任契約の締結の承認
・令和2年度みくら保育園の立入調査結果報告及び改善事項の承認

令和3年6月7日 第2回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事6名、監事2名

- 承認事項：・令和2年度事業報告
・令和2年度決算報告及び監事監査報告
・定時評議員会決議事項
・新評議員候補者の推薦について
・社会福祉法人梓友会給与規程の一部改定について
・理事長職務執行状況の報告について

令和3年6月23日 令和3年度 定時評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里（リモート併用）

出席：評議員7名、理事3名、監事2名

- 承認事項：・令和2年度事業報告
・令和2年度決算報告、監事監査報告及び承認
・理事、監事の選任
・新評議員の報告

令和3年6月23日 第3回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事6名、監事2名

- 承認事項：・理事長の選任
・施設長他の選任

令和3年12月10日 第4回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事6名、監事2名

- 承認事項：・令和3年度第一次補正予算の承認
・クレジットカード取扱規程の制定の承認
・経理規程の一部改定の承認

- ・定款細則の一部改定の承認
- ・企業主導型保育事業みくら保育園施設運営規程の一部改定の承認

令和4年3月23日 第5回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事6名、監事2名

承認事項：・令和3年度最終補正予算の承認

- ・令和4年度事業計画の承認
- ・令和4年度当初予算の承認
- ・給与規程の一部改定の承認
- ・非常勤職員給与規程の一部改定の承認
- ・育児・介護休業等に関する規程の一部改定の承認

2. ISOの推進

8月～10月 内部監査計画に基づき内部監査を実施

11月17～19日 第6回更新審査（審査員：日本検査社-II長谷部・津島・関審査員）

12月3日 更新決定（有効期限 2025/3/3 日本検査社-IIより登録証を受領）

3. 施設長会議、マネジメントレビュー

毎月下旬開催（年間12回）

議題 理事長指示事項、数値目標達成状況、運営状況（職員配置、利用者状況等）、
評価・不適合報告、部門目標達成状況報告他

マネジメントレビュー（外部・内部要因の変化、取り組み状況、評価不適合）

7月20日 令和2年度総括

10月19日 令和3年度前期総括

令和4年5月24日 令和3年度全期総括

4. 経営調整会議

毎月下旬に開催（年間12回）

議題 月次予算実績対比表の報告と分析

5. 会計監査人監査

米田光一朗会計監査人による会計監査を計6回実施

※リモートにて実施

5月20日 令和3年2月～3月会計データ分（決算に係る会計監査を含む）

10月29日 令和3年4月～6月会計データ分

12月24日 令和3年7月～9月会計データ分

1月28日 令和3年10月～11月会計データ分

2月25日 令和3年12月会計データ分

3月25日 令和4年1月会計データ分

6. 監事監査

佐野監事、外岡監事による監査を計2回実施

5月28日 決算監査（事業報告、計算関係書類、財産目録に関する監査）

11月15日 期中監査（理事の業務執行状況、施設運営状況、財産状況に関する監査）

7. 月次会計監査

会計顧問事務所（イワサキ経営 戸部様）による会計監査を計13回実施

※リモートにて実施

4月22日 令和3年3月会計データ分

5月12日 令和3年度決算に係る監査

5月26日 令和3年4月会計データ分

6月28日 令和3年5月会計データ分

7月26日 令和3年6月会計データ分

8月24日 令和3年7月会計データ分

9月22日 令和3年8月会計データ分

10月27日 令和3年9月会計データ分

11月25日 令和3年10月会計データ分

12月21日 令和3年11月会計データ分

1月24日 令和3年12月会計データ分

2月24日 令和4年1月会計データ分

3月28日 令和4年2月会計データ分

8. 管理者・本部職員対象の研修会の実施

株式会社クロスボーダー鈴木聡様による財務管理に関する研修会を計6回実施

※リモートにて実施

4月27日 「問題発見のための会計」

6月29日 「社会福祉法人における予算管理①」

8月26日 「社会福祉法人における予算管理②」

11月10日 「中期予算の編成、新規事業計画の会計」

1月25日 「バランスト・スコアカード」

4月7日 「費用削減の手法」

9. 団体交渉・労使協議会の実施

6/15、25 第1回団体交渉・労使協議会 夏季一時金(1.8ヵ月)、処遇改善交付加算金

11/9、24 第2回団体交渉・労使協議会 冬季一時金(1.8ヵ月)、処遇改善交付加算金

2/2、3/9 第3回団体交渉・労使協議会 定期昇給(2号俸)、令和4年度一時金

10. 福祉関係団体の各種セミナー参加

全国社会福祉施設経営者協議会、全国社会福祉協議会、社会福祉懇談会、
全国老人福祉施設協議会、東京経営者協会、日本介護経営学会、日本老年社会学会、
青年福祉施設経営研究会、つしま医療福祉研究財団、医療介護福祉政策研究フォーラ
ム、介護人材政策研究会

11. 静岡県社会福祉法人経営者協議会 東部地区経営協 事務局の運営

8月 総会 書面による議決承認

8/4 合同研修会

会 場：オンラインにて開催

参加者：60名

演 題：『松下幸之助と孫正義に直接学んだ超一流のリーダーシップ』

講 師：ソフトバンク株式会社

元社長室長 嶋 聡 氏

3/3 静岡県福祉職合同入職式

会 場：オンラインにて開催

参加者：東部地区の福祉職新規採用者（新卒者）17名

3/11 事務研修会

会 場：オンラインにて開催

参加者：33名

演 題：『これからの地域共生社会のあるべき姿』

講 師：静岡県立大学 経営情報学部 経営情報イノベーション学科

講師 木村 綾 氏

令和3年度 教育研修実績報告

	内 容	詳 細																															
新 任 職 員 研 修	① 新任職員オリエンテーション（12期生）	令和3年4月1日（6名） ※感染症対策により3月から変更																															
	② 新任職員技術研修（12期生）	4月2・3日（6名）																															
	③ OJT教育	各所属施設にて（6名）																															
	④ 12期生フォローアップ研修Ⅰ 12期生フォローアップ研修Ⅱ 12期生フォローアップ研修Ⅲ 11期生フォローアップ研修（2年目研修）	6月30日（5名） 9月16日・17日（6名） 12月17日（5名） 12月17日（2名）																															
	⑤ スキルチェック	各施設にて																															
	⑥ 法人オリエンテーション	第1回 9月18日（10名） 第2回 9月25日（7名） 第3回 12月22日（7名） 第4回 3月23日（7名）																															
内 部 研 修 等	① 施設内研修（職員対象）																																
	<ul style="list-style-type: none"> ・施設企画1 「高齢者虐待・身体拘束廃止」 <li style="padding-left: 20px;">「令和2年度基本方針・事業計画について」 <li style="padding-left: 20px;">「職業倫理について」 <li style="padding-left: 20px;">「令和2年度基本方針・事業計画について」 <li style="padding-left: 20px;">「倫理及び法令遵守について」 <li style="padding-left: 20px;">「令和2年度基本方針・みくらの里事業計画について」 <li style="padding-left: 20px;">「新型コロナウイルス感染症について」 ・施設企画2 「施設で実施する医療的ケア」 <li style="padding-left: 20px;">「感染症・食中毒予防」 <li style="padding-left: 20px;">「褥瘡対策について」「感染症・食中毒予防」 <li style="padding-left: 20px;">「食中毒予防・感染症予防について」 <li style="padding-left: 20px;">「食中毒について」 	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">梓の里</td> <td>5月27日</td> </tr> <tr> <td>みなとの園</td> <td>5月27日</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">//</td> <td></td> </tr> <tr> <td>太陽の里</td> <td>4月20日</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">//</td> <td></td> </tr> <tr> <td>みくらの里</td> <td>4月28日～</td> </tr> <tr> <td>エクレシア</td> <td>7月 3日</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> </td> </tr> <tr> <td>梓の里</td> <td>7月20日～22日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7月29日～31日</td> </tr> <tr> <td>みなとの園</td> <td>7月29日</td> </tr> <tr> <td>太陽の里</td> <td>5月28日</td> </tr> <tr> <td>みくらの里</td> <td>8月12日～14日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8月17日～21日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8月25日～27日</td> </tr> <tr> <td>エクレシア</td> <td>8月 5日</td> </tr> </table>	梓の里	5月27日	みなとの園	5月27日	//		太陽の里	4月20日	//		みくらの里	4月28日～	エクレシア	7月 3日			梓の里	7月20日～22日		7月29日～31日	みなとの園	7月29日	太陽の里	5月28日	みくらの里	8月12日～14日		8月17日～21日		8月25日～27日	エクレシア
梓の里	5月27日																																
みなとの園	5月27日																																
//																																	
太陽の里	4月20日																																
//																																	
みくらの里	4月28日～																																
エクレシア	7月 3日																																
梓の里	7月20日～22日																																
	7月29日～31日																																
みなとの園	7月29日																																
太陽の里	5月28日																																
みくらの里	8月12日～14日																																
	8月17日～21日																																
	8月25日～27日																																
エクレシア	8月 5日																																

	内 容	詳 細
	<p>・施設企画3「看取りについて」 「WEB版運転者向けセミナー」 「事故防止」「身体拘束の予防」 「感染症研修会（ガウンテクニック）」 「身体拘束について」</p> <p>・本部企画1、2 ※新型コロナウイルス感染症により中止</p>	<p>梓の里 10月30日 みなとの園 8月27日～9月10日 太陽の里 10月22日 みくらの里 11月6日・16日・18日 11月20日 エクレシア 10月10日</p>
	② 各施設及び各部署での勉強会	各施設・各部署にて実施
	③ 内定者フォローアップ研修	3月18日（木） 4名
	④ 育成担当者研修（オンライン）	9月24日（木） 9名
資格取得支援	① 介護福祉士受験対策講座による資格取得の支援	模 試：11月に在宅試験として実施 受講生：2名
	② 介護実務者研修 スクーリング（協力事業）	日 程：令和2年9月12日（土）～ 10月31日（土） 受講生：22名 協力校：専門学校ユマニテク医療福祉大学校
地域福祉活動他	介護の魅力発見セミナー（学校訪問） 静岡県社会福祉人材センターより依頼	6月26日 河津中学校3年（61名） *新型コロナウイルス感染症により 今年度は1校のみ

企業主導型保育事業みくら保育園

1. 利用者の状況 [令和4年3月31日現在]

①利用者の現員 (単位：人)

項目	男性	女性	計
利用者	6	10	16

②職員枠と地域枠利用状況 (単位：人)

項目	職員枠	地域枠	計
利用者	11	5	16

内、保護者の採用により利用をしている人数 1名

③年齢別男女構成比 (単位：人)

年齢階層	男性	女性	計	比率
0歳児	0	2	2	13%
1歳児	4	5	9	56%
2歳児	2	3	5	31%
3歳児	0	0	0	0%
4歳児	0	0	0	0%
5歳児	0	0	0	0%
計	6	10	16	100%

④年齢別利用者数の状況 (単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
4月	0	8	5	0	0	0	13
5月	0	8	5	0	0	0	13
6月	0	8	5	0	0	0	13
7月	0	8	5	0	0	0	13
8月	0	8	5	0	0	0	13
9月	0	9	5	0	0	0	14
10月	1	8	5	0	0	0	14
11月	1	9	5	0	0	0	15
12月	1	9	5	0	0	0	15
1月	1	9	5	0	0	0	15
2月	1	9	5	0	0	0	15
3月	2	9	5	0	0	0	16
平均	1.0	4.0	6.9	1.0	0.0	0.0	14.1

*各月、月末現在

⑤保護者勤務体系別利用人数 (単位：人)

項目	正職A	正職B	非常勤	地域枠	計
保護者	7	1	3	5	16

3. 研修会・会議の開催状況

①研修会

実施日	研修会名	場所
R3.5.22	令和3年度基本方針サービス基本方針について 「職場のパワーハラスメントを考える」	オンライン研修
R3.7.14	感染症講座（児童編）	オンライン研修
R3.8.23	気になる子どもの発達支援	オンライン研修
R3.10.6～R4.1.15	企業主導型保育事業保育安全研修会	オンライン研修
R3.10.26	ハラスメントについて	オンライン研修
R3.11.15	感染症対応研修会	オンライン研修
R3.11.16～R4.1.31	企業主導型保育事業施設長研修	オンライン研修
R3.11.26	社会福祉施設等職員防災研修会	オンライン研修
R4.2.15	保育事業経営セミナー	オンライン研修
R4.2.19	子どもがいる現場のリスクマネジメント講座	オンライン研修

特別養護老人ホーム 梓の里

令和3年度 事業報告

運営目標	具体的実績
1.組織強化	<p>持続的な施設運営を可能とするため、特に老朽化インフラの更新を計画的に推進し、飲用水 PH 調整装置、屋上防止処理、エアコン修繕、ダムウェーター外壁塗装工事、給湯ボイラー修繕を行い、一定の成果を得た。</p> <p>一方、通信インフラが老朽化していること、構内通信環境が未整備という課題解消のため、施設内 Wi-Fi 工事を行い、光回線の利用と併せて、その機能を十分に活用できる環境整備が整い、介護記録ソフト（ケアカルテ）導入にも繋がった。</p>
2.職場環境	<p>① 令和3年度介護報酬改定事項に沿って、施設における事故発生の防止と発生時の適切な対応を推進する観点から、全国老施協が主催する研修に参加した生活相談員を当施設における安全対策担当者を選任した。</p> <p>また、夜間、休日の看護職が不在になる日や時間帯については限られている環境下においても、技術・知識レベルのボトムアップを図れるよう、ドクターメイトなどの外部サポート機能を活用した。</p> <p>② 衛生管理、動線分離に重点をおき感染症対応型組織への転換を推進し、ご利用者、職員とも安心して過ごせる施設運営を行ってきた。</p> <p>一方、入所者家族への面会対応は、窓越し面会、LINE ビデオ通話を使用したオンライン面会を実施した。</p> <p>また、ICT（ケアカルテ導入）を活用し、職員の記録・情報管理について通信機器等を利用することにより労働環境改善を図ることができた。</p>
3.地域貢献	<p>① 従来の様に地域の方々を施設にお招きして、様々な感染症対応など様々な情報提供を行う事が困難になったため、横川、加増野地区の方々には、相談部門で「施設の防災」「成年後見制度」「骨折・転倒予防」栄養部門で「食中毒」「フレイル」「免疫力」看護部門で「熱中症」「感染症」「骨粗しょう症」という内容で7月、10月、3月回覧版発行日に情報発信を行った。また、栄養部門は、7月、10月に利用者家族あてに「食中毒の予防」「免疫力アップ」という内容で栄養便りを発行し、地域資源としての役割を担った活動を行った。</p> <p>② 当施設では下田市の災害避難所指定を受託しており、下田市災害物資の保管受託、情報機器の配置など、避難所機能の強化を図ってきた。しかし新型コロナウイルスの感染流布により、感染症対応型避難所への転換を迫られていた。年度末に静岡県社会福祉協議会の静岡 DWAT 事務局から段ボールベッド、パーテーション、ビブスの寄贈を受け、感染症にも対応できる環境に設えることができた。</p>

特別養護老人ホームみなとの園

令和3年度 事業報告

令和3年度事業計画	進捗状況
<p>1.法人財務強化策と時代に即応した経営の確立 (1) 令和3年度制度改正への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「事業継続計画（BCP）」作成準備を行うために、「災害対策委員会」を設置し、年4回開催し、過去に作成したBCPの把握、現状の問題点等を討議した。次年度はBCPの完成に向けて、「BCP作成委員会」に内容を引継ぎ、BCP作成に取り組む。 ・科学的介護推進体制加算取得に向けて、介護記録ソフト「ケアカルテ」を導入し、「科学的介護情報システム（LIFE）」の登録を行った。ケアカルテ利用方法を推進する為に「科学的介護推進委員会」を設置し、年4回開催した。次年度はLIFEに対応した科学的介護推進体制加算、褥瘡マネジメント加算を取得する。 ・研修を受講した安全対策担当者を任命し、令和3年10月から義務が生じる「安全対策担当者会議」を設置した。また、令和6年3月までに設置義務がある「虐待防止委員会」を設置した。 ・短期営業用チラシを刷新するなどの営業活動を実施し、短期の稼働率は目標の90%には届かなかったが、前年度81.3%から87.1%に5.8%向上し、法人の安定経営に寄与できた。また、特養入所者の適正認知症度Ⅲ以上65%の数値管理を行い、日常生活継続支援加算を継続的に取得した。
<p>2. 人材確保強化と職場環境の革新 (1) 2040年を見据えた人材確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の腰痛予防・軽減に取り組み、抱えない、持ち上げない介護者・要介護者に負担の少ない介護サービスを実現するために、今年度も移乗補助具を購入した。 ・対象職員の有給5日の所得が実施できた。また、介護職員の業務軽減を実施するために、ISO手順書の見直しを行った。 ・今年度も管理栄養士による「栄養士便り」を職員向けに作成し、職員の健康意識の向上に努めた。
<p>(2) ITやロボット技術の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・IT機器の導入に向けて、Wifi通信環境の整備を行い、LIFEに対応した介護ソフト（ケアカルテ）を導入し、タブレットによる介護記録が実施でき、記入書類が減りペーパーレス化の推進ができた。 ・移乗サポートロボット（Hug）、装着型ロボット（HAL）といった最先端のロボット機器を導入し、利用者と介護職員の身体的負担の軽減を図った。
<p>3. 地域共生社会実現とコンプライアンス経営の徹底 (1) 法令順守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員に対し、社会福祉法、介護保険法などの関係法令、法人の理念、ISOの規格要求事項などを施設内研修等で説明し、法令順守に対する意識の向上に努めた。 ・消防法、建築物衛生法、電気事業法等の施設設備の維持管理に係る法令に基づき、施設運営を安全に行うために、老朽化した給水ポンプ、非常灯、非常誘導灯等の交換を行った。また、消防法改正により義務となった非常用発電機の負荷試験を行った。

(2) 社会貢献・地域貢献活動の実施

・南伊豆中学校、南伊豆町社会福祉協議会等、地域の社会資源との連携を図り、地域に開かれた施設運営を行った。コロナ禍で活動は限られたが、南伊豆分校 3 年生のインターンシップ受入を行った。

・前年度より継続して「認知症カフェ（南伊豆町実施事業）」の運営を行い、コロナウィルス感染症対策を実施して、施設 1 階の通所介護で使用していたスペースを活用した。また、今年度は認知症カフェ内で、南伊豆分校生が栽培した生花や野菜の販売、オンラインでの整体講座を開催した。

特別養護老人ホーム 太陽の里
令和3年度 事業報告

目標実現のための具体的方法	進捗状況
<p>1. 法人組織強化と時代に即応した経営の確立</p> <p>(1) ご利用者サービスが安定的かつ継続的に提供される体制を構築</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大規模災害発生を想定する中で西伊豆町と連携し事業継続計画(BCP)を策定する。 • BCP 策定のため防火管理者を中心とした委員会を立上げ、策定した BCP の有効性検証のため PDCA を回していく。 • 新型コロナウイルス感染症等、感染症の事業継続計画(BCP)を策定する。 • BCP 策定のため看護師を中心とした委員会を立上げ、策定した BCP の有効性検証のため PDCA を回していく。 • コロナウイルス感染拡大を予防するために、社会的 PCR 検査（ご利用者、職員、委託職員）を定期的に実施する。 <p>(2) 地域包括ケアシステムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> • 認知症ご利用者に対して専門的対応を目指すために外部研修（9月、10月）に参加し、その後、施設内研修(10月、11月)で研修報告を行う。 • かかりつけ医および居宅介護支援事業所との連携にて、短期ご利用者の看取り介護体制を充実し、地域及びご家族のニーズに対応できる体制を整える。 • 西伊豆町地域住民に対して、介護予防及び生活支援の充実を図るため、西伊豆町からの委託事業を通じて、地域の福祉課題等に対応する。 <p>2. 人材確保強化と職場環境の革新</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 既存のBCPとR3年度策定の社会福祉施設避難確保計画を西伊豆町町議である災害ボランティアコーディネーター連絡会代表にチェックと助言を受けた。その上で全スタッフで防災研修を行い防災意識付けを図った。利用者に必要なサービスが安定的、継続的に提供される体制の構築を目指し全部門で取り組むために令和4年度の部門目標とした。 • コロナウイルス感染症への対応として、持ち込まないためのスタッフの行動、発生した場合のスタッフの行動を看護師を中心に都度、嘱託医に相談しながら実行。結果、持ち込まないためのスタッフの意識は非常に高いと評価。利用者に必要なサービスが安定的、継続的に提供される体制の構築を目指し全部門で取り組むために令和4年度の部門目標とした。 • R3.4月に入って早々からR4.2月にかけてコロナワクチン3回終了した経緯の中で、第6波の緊急事態制限発令時に職員、短期・通所のご利用者対象にR4.2月からPCRモニタリングを実施。緊急事態制限発令が解除された3月には終了。 • 外部研修受講を計画するとともに、受講者は研修内容を振り返り更に深める事を目的に施設内研修で研修報告を行う。その事が受講したスタッフの知識となり意欲向上につながっていると評価。 • 看取り介護対応の短期ご利用者はなかったもののコロナワクチン接種においては、独居ご利用者の接種を短期と通所の利用時に実施。ご家族、かかりつけ医及び居宅ケアマネより感謝の言葉を頂く。 • 委託事業生きがいデイサービスを2回/週及び西伊豆町移動外出支援サービス実証実験の協力の中で福祉の一助と確認できる。

(1)働きやすい職場環境づくり

- ICT・ロボット・センサーなどの活用により、非効率な業務を見直していく。
- 業務負担改善や文書負担軽減のため、ICT導入を進める。
- リフレッシュ休暇などを設定し、いきいきと働く事ができるようにするため等、有給休暇の取得促進等を行う。
- メンタルヘルス、悩みなどの軽減や緩和のため、定期的または随時の面接を実施していく。
- ハラスメントを生まない職場環境づくりのため、ハラスメント防止研修（年2回）へ参加し基本的な知識を学ぶ。

3. 地域共生社会実現とコンプライアンス経営の徹底

(1) 社会福祉関連法を職員一人一人が遵守する公益性の高い経営

- 施設内研修にて、介護保険法等社会福祉の関係法令を理解していく。
- 静岡県介護保険施設等指導方針を熟知する中で、介護サービスの質の確保及び保険給付の適正化を図る。

(2) ご利用者の人権に配慮した経営・運営の推進

- ご利用者の安全・安心の確保及びサービスの質の向上のため、施設内研修や外部研修の中で倫理・法令遵守の啓発および虐待防止法等の適切な理解を深めていく。
- 感染症・介護事故及び交通事故の発生予防の意識向上となるように定期的な研修を行う。

(3) 人材確保の取り組み

- 学校や各種団体からの要望により、職場体験学習、実習生、学生・地域のボランティアを受け入れる中で介護の魅力を伝える。
- 介護に関する教育の要望がある時は積極的に受

- 導入までは至らずであった。今後、テクノロジーの活用、ICT導入について知識を高め業務負担改善のため、令和4年度部門目標に掲げ、検討委員会を設置し共通課題として取り組んでいく。
- 部門の責任者との連携にて都度の面接を実施。また、有休休暇の取得にてリフレッシュとなり心身の休息になっていると評価できる。しかし、令和3年度においては退職者が7名となっている。
- 本部主催のハラスメント研修に部門責任者が受講。様々なハラスメントの理解にて、今後の職場環境づくりに生かせると評価。

- 静岡県、西伊豆町及各団体から発信された文書やメールにおいて各部門責任者と情報共有するとともに都度、情報を共有する事でコンプライアンスを意識できていると評価

- 虐待防止については外部及び施設内研修にて理解を深め予防に努める事を意識して実行。感染症についてはクラスター発生を絶対に起こさない意識で看護師を中心に実行。結果、発生もなく経過。しかし、介護事故においては非常階段から車椅子で降り、その後転倒し怪我をしまい入院した経緯がある。同じことを繰り返すことがないように防犯カメラの設置等、ハード面の改修とスタッフ全員で事故の振り返りを実施。この事を生かして介護事故の発生予防となるように努める。

- コロナウィルス感染症により関係機関からの依頼もなく受け入れは中止となった。
- 本部との連携にて定期的（4回）にブログにて太陽

<p>け入れる中で介護の魅力を伝える。また、ブログ等にて太陽の里をアピールしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各事業において、事業内容、ご利用者・ご家族の意見及び地域の意見等を広報誌にて公表する中で太陽の里をアピールしていく。 	<p>の里をアピールしたが効果の程は感じられないがブログでのアピールは継続するとともに、3事業でリーフレット作成も行いアピールしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報誌については特養4回、短期6回、通所12回発行する中でご家族からの反応はあり、太陽の里のアピールとなっていると評価
---	--

介護老人福祉施設みくらの里

令和3年度 事業報告

運 営 目 標	実 績
<p>1. 法人組織強化と時代に即応した経営の確立</p> <p>(1) 継続可能な運営体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BCP 策定委員会の設置。 想定する緊急事態 ●新型コロナウイルス罹患発生対応 ●台風や地震等の自然災害 <p>※発災後の静岡DWAT等との連携</p> <p>(2) 認知症ケアの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症回想療法の一つ『ミッケルアート』を導入。 ・新人職員への高齢者とのコミュニケーション力育成。 <p>(3) ICT を活用したケアの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・眠りスキャン：睡眠状態や体調変化等各種データを“見える化”。 ・ケアカルテ：L I F E連携し、PDCA サイクルへの落とし込み 	<ul style="list-style-type: none"> ・BCP策定期間中、新型コロナウイルスの罹患患者2名が現実に発生した。それまでに想定していた案をもとに、ゾーニング、感染拡大防止対策を徹底して行った結果、感染を最小限にとどめることができた。実際に経験した事案をもとに、次年度は委員会を定期的開催し、作成すること、又、自然災害についても、突発的な豪雨の対応として停電対策などに加え静岡 DWAT 等との連携を図ることとする。 ・取組みとして、ご入居者にアート（回想療法）を見ていただき昔を思い出したり笑顔を引き出したりといった生活上の副次的成果を垣間見ることができた。新人職員への高齢者とのコミュニケーションの1つのツールとして、コロナ禍でありながら一定の参加者に実施した。 ・業務改善の一つとして眠りスキャン使用については、各ユニットごとに対象者を決め、夜間の睡眠リズムを定期的に観測した。その結果、夜間の排泄介助をご入居者の負担なく効果的に行うことに一定の成果を得られた。 ・ケアカルテについては、L I F E連携を行い早期に加算をとることができた。また、半年に一度の入力データ更新もあり、次年度以降L I F Eから得られたデータをもとにPDCAサイクルへの落とし込みを行うこととする。
<p>人材確保強化と職場環境の革新</p> <p>(1) 多職種連携による事故防止検討強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨折事故防止を目的とし、体位交換時負担軽減用のエアマット、移乗時負担軽減用の移乗機器導入。 ・事故防止及び身体拘束廃止委員会にて検討し、発生事故件数を前年度より20%減少させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エアマットの導入により、特に看取り期における身体機能が脆弱となったご入居者の骨折等のリスクを減らすことができた。また、移乗リフトの導入により、大腿骨骨折直後のご入居者に対してさらなる骨折のリスクを軽減しながらスムーズな移乗を行うことができた。 ・コロナ禍により会議がオンラインでの開催となったため、事故防止や身体拘束について深いところまでの議論を行うまでには至らなかったが、周知徹底をすることにより、重大事故発生件数を前年度比16%（2件）減少させることができた。

運 営 目 標	実 績
<p>(2) 働きやすさ向上のための業務フローの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアカルテ導入から1年が経過。業務フローや必要書類の確認。業務効率化、生産性向上とケアの質的充実を図る目的でISO様式等の見直しの実施。 <p>(3) SNSを活用した情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> HP、SNSを活用し、施設内の状況を公に遅滞なく発信する。(年12回) 特養・短期・通所からのサービス案内を実施し、営業に繋げることで稼働の安定も図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、ケアカルテ導入についての職員アンケートを実施し、紙媒体での記入から大幅に負担が減ったという意見が大多数の職員から得られた。写真データもケアカルテ上で一本化され、資料を探す時間、データを引き出す時間も大幅に削減された。次年度以降、さらに集計機能等の精度を高め、効率化していくことでさらなる業務負担の軽減を図り、ICT導入の成果が業務改善・収益改善に結びつくよう検討していく。 法人HPがリニューアルされ、レイアウトがより見やすく親しみやすいものとなった。HP内にInstagramのコーナーも設けられ、施設内以外にも、地域情報等織り交ぜられる環境がととのった。 各事業所の行事、食事サービスをブログにアップし、皆様に御覧いただけるよう努めた。また、各職員が情報発信についても意識し、積極的にサービスを盛り上げていく姿勢も見られた。次年度以降、コロナ禍以前の稼働に戻ることを目標とする。
<p>3. 地域共生社会実現とコンプライアンス経営の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> サイボウズの掲示板機能を活用職員一人ひとりが福祉の担い手として知り得るべき法改正や制度変更について発信し共有。そこで得た知識を各所属会議等で議題として取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> サイボウズ掲示板を活用して、研修や世間の動向に応じた感染症対策情報の共有を行い、その中に織り交ぜられていた法や制度について一定程度の知識の浸透が見られたが、所属会議等で議題として取り上げることは一部にとどまった。次年度以降はハラスメントや法令遵守について一層の共有と意識づけをはかっていくこととする。

介護老人福祉施設エクレシア南伊豆 令和3年度 事業報告

令和3年度 事業報告	進 捗 状 況
<p>1. 法人組織強化と時代に即応した経営の確立</p> <p>(1) 科学的介護の推進</p> <p>(2) 感染症の対策強化と業務継続に向けた取組</p> <p>(3) 杉並区の入居者獲得の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> • エビデンスに基づいた自立支援、重度化防止等を進めるために令和3年4月より「科学的介護推進体制加算」を取得し、LIFE（国のデータベース）の活用を開始した。 • 5月の施設内研修においてBCPについての研修を実施。また、感染症に対するBCP（第1版）を作成した。また、新型コロナウイルス感染症への対応として、町と嘱託医のご協力のもと、3回目のワクチン接種を計画し、職員及び特養・ショートステイ・デイサービスの利用者に対し、計235名の予防接種を実施した。 • 今年度はコロナ禍の影響もあり、PR説明会は年4回の開催となった。また、新たに7名入所があったが、退所も6名となり年度末では杉並区民の入所者数は38名（前年対比+1名）となった。
<p>2. 人材の確保強化と職場環境の革新</p> <p>(1) 介護現場の革新</p> <p>(2) ホームページ、SNS等の内容刷新</p> <p>(3) 地域（地元、杉並区）との連携強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 介護現場でのICT活用のため、介護記録システム「ケアカルテ」や見守りセンサー「眠りSCAN」の活用・検証を実施した。次年度も継続的に取組みを進めていく。 • 新たにエクレシア南伊豆独自のホームページを開設した。合わせて、施設専用のSNS（facebook、Instagram、ブログ）を開設、随時情報を更新し、PR強化と幅広い層への情報発信を行った。 • コロナ禍の影響により、連携の取組みにも制限がかかる中、地元高校生が生産した野菜を施設で販売した。また、杉並区とは杉並区内の保育園・ボランティアセンターとオンラインでの交流会を開催した。
<p>3. 地域共生社会実現とコンプライアンス経営の徹底</p> <p>(1) 高齢者虐待防止の推進</p> <p>(2) 地域の多様な生活課題の解決</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者虐待防止法の改正施行に合わせ、指針の整備、研修の開催、及び安全対策担当者を決定した。 • 南伊豆町社会福祉協議会と連携し、「地域における公共的な取組み」の一つとして高齢者の移動・外出支援事業を実施。高齢者サロンに参加する地域の高齢者の送迎を行った。次年度も継続して実施していくこととなる。

小規模多機能型居宅介護 みくらの里

令和3年度 事業報告

令和3年度 事業報告	進捗状況
1. 法人組織強化と時代に即応した経営の確立	<ul style="list-style-type: none"> • ミッケルアートをタイプの違う認知症利用者6名に対し実施。活動の中で得た気づきを共有し、「その方が望む活動」「やりたいことの実現」について検討し、実施することができた。認知症だからとあきらめるのではなく、希望を聞き出しどうしたら行えるか、どうしたら喜ばれるかを考え、活動に展開していくことが自然にできるようになった。 • 登録者数については、昨年度10月頃より低迷が続いていたが、6月に原因の分析を行い、効果的に営業を実施。サービス事例を交えた冊子「小規模多機能ってどんなところ？」を作成。近隣居宅支援事業所、病院等に配布することで、7月より随時、相談・紹介をいただけるようになった。 8月以降は目標を上回り28名～29名に回復できたが、前半が低迷していたため年間平均は目標ギリギリの26.8名だった。 ご夫婦の依頼が増えてきており、生活全体を捉えた支援が必要とされていることがうかがえる。 また、一日に複数回、毎日の対応が必要な方も多く、訪問稼働率が大幅に増えている。R4.1.1より、訪問体制強化加算（要介護認定者のみ、1ヶ月1000単位）取得となった。 （訪問稼働率33.1%：前年比+6.7、延べ回数3520回：前年比+720） <p>*R3年度新規登録者14名（自宅12名、医療機関2名）</p> <p>*終了者10名（施設入所4名：梓1名、エクレシア1名、みくら1名、みなと1名、逝去3名、長期入院1名、サービス変更1名）</p> <p>*通い：11.6/日（-0.4）利用率90.8%（+2.0）稼働率64.2%（-2.6） 訪問：9.6/日（+1.9）利用率56.0%（+6.9）稼働率33.1%（+6.7） 宿泊：4.9/日（+0.2）利用率50.0%（±0）稼働率98.1%（+3.2）</p>
2. 人材確保強化と職場環境の革新	<ul style="list-style-type: none"> • 職場内を2グループに分け、小集団化することで相談や研修等、行いやすくなることを期待したが、なかなか時間が取れず小集団化した意味はほとんどなかった。 ただ、グループにこだわらず日々の業務において、得て不得手を教えあい、学びあう姿はみられ、助け合える職場環境にあると思う。 • また、自ら挑戦する姿勢がみられるようになり、介護福祉士国家試験に1名合格することができた。 • ケアカルテの導入となり、操作方法を教え合ったり、機能の活用や発見で重複した資料の削減に向けた検討も行っており、業務省力化に向けた取り組みを次年度も継続して行っていく
3. 地域共生社会実現とコンプライアンス経営の徹底	<ul style="list-style-type: none"> • 認知症の進行により、地域でトラブルとなるケースが何件か発生したが随時、民生委員や近隣住人を含めた検討会を開催し、社会資源に結びつけながら、本人の望む生活の継続が図られるよう支援できた。 介護保険に固執することなく社会資源も併用し、サービス提供する中で医療・地域との連携も図れるようになった。 • また、施設入所となるケースも多かったが、環境変化への負担軽減のため、段階的に「泊りに慣れること」「家から離れること」等の練習を含めたサービス利用調整を行い、スムーズな移行の支援も行えた。